



第74期 事業報告書

平成16年11月1日 ▶ 平成17年10月31日

株式会社 **ミロク**

証券コード：7983

# グループ企業理念

“HONESTY”を貫く真摯なモノづくりで、  
ミロクグループは世界に誇れる企業を目指します。

明治26年の創業から1世紀を超える歴史と伝統に培われた「匠の技」と、最新技術の融合が生み出すオンリーワンの商品群。美しさや機能、耐久性、そして安全性などの多様で高度なニーズに応えるため、何事に対しても頑なまでに正直な姿勢でモノづくりに取り組む。ミロクグループは“HONESTY”の精神を貫き、世界への飛翔を目指します。

1

世界最高水準の銃づくりで培った技術に一層磨きをかけ、応用・展開を図ることにより、顧客にとってさらに価値ある商品を提供していきます。

2

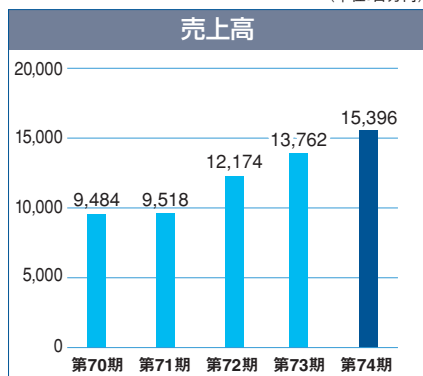
会社の活動を支えるのは従業員一人ひとりの力であることを心にとめて、従業員にとって働き甲斐があり、持てる力を存分に発揮できる職場を作ります。

3

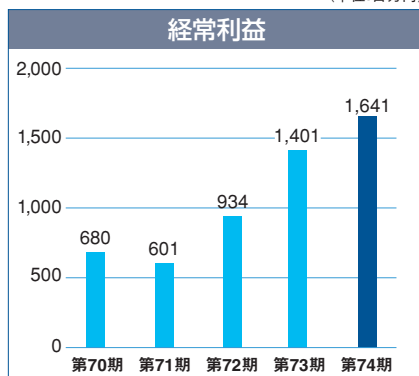
法と倫理を遵守し、自然・地域と共生しながら、会社に関わるすべての人や組織にとって価値ある企業であることを目指します。

## ハイライト情報（連結）

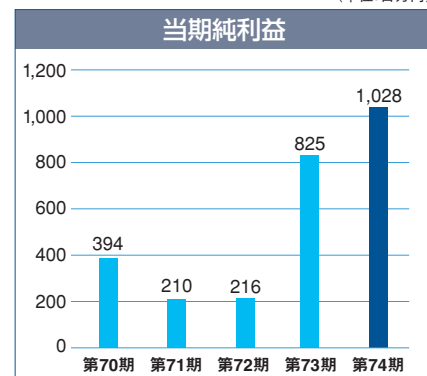
(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



グループ各社がシナジー効果を発揮しながら、  
独創性にあふれる商品・技術の開発に挑んでいます。



世界的に屈指の評価を受けるミロクの猟銃。その製造技術を応用展開して、世界最小の深孔加工ができるガンドリルマシンなどの工作機械事業や、削り出し成型による純木製自動車用ステアリングハンドルの量産に世界で初めて成功した自動車関連事業など、グループ企業としての多角化を図っています。中核となる猟銃づくりの技術をさらに深めていくと同時に、グループ各社の持つ固有技術のシナジー（相乗）効果によって独創性あふれる「ミロクオリジナル」の商品・技術を開発していきます。

# トップインタビュー

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第74期（平成16年11月1日から平成17年10月31日まで）の事業報告書をお届けいたします。

今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



平成18年1月  
代表取締役社長 弥勒 美彦

**Q** 当期のミロクグループの業績をお聞かせください。

**A** 事業が好調に推移し、過去最高の業績を上げました。

当連結会計年度におきましては、事業の3本柱である猟銃事業、工作機械事業、自動車関連事業がともに大変好調に推移し、過去最高の実績を上げることができました。連結売上高は153億9,665万円（前期比11.9%増）となり、利益面では、経常利益16億4,152万円（前期比17.2%増）、当期純利益10億2,844万円（前期比24.6%増）となりました。

この背景には、わが国の経済が、原油や鋼材をはじめとする原材料の急激な高騰などの不安要因はあるものの、自動車関連企業などの輸出拡大や企業収益の改善、

設備投資の増加によって、緩やかながら回復基調で推移したことが挙げられます。このような状況のもと、当社グループは各社が連携を図りながら、さらなる効率性の追求と付加価値の高いモノづくりに邁進。生産効率の向上をはじめとした改善活動を推進することによって、原価低減に積極的に取り組んでまいりました。それとともに、独創性豊かな新製品の開発や高い品質の製品づくりに力を注ぎ、市場競争力の強化に努めてまいりました。

このようなたゆみない企業努力が、好調な業績に反映されたものと考えております。

## Q 当期における主力3事業の概況は？

### A どの事業も市場ニーズに応える真摯な姿勢を貫きました。

#### 【猟銃事業】

ミロク製作所を中心とした猟銃事業におきましては、主力となる米国市場で好調な売れ行きを示し、全生産数は14万挺近くに至りました。

散弾銃では、ブローニング社と共同開発した新製品の上下二連銃「CYNERGY」が絶大な評価を受けると同時に既存モデルへの再評価も高まり、フル生産に近い状況が続きました。またライフル銃では、ブローニング社とオリン社が共同で、より小型かつパワフルな銃と弾丸の開発を推進。その効果で当社の主力製品であるボルトアクションライフル銃「A-BOLT」も高い水準で売上げを維持しました。

銃づくりの根幹を支える「匠の技」の伝承にも積極的に取り組み、機械化することのできない高い技能を計画的に若手へ引き継がせることに努めております。

#### 【工作機械事業】

ミロク機械が推進する工作機械事業では、設備投資に意欲的な自動車ならびに金型業界を中心として、ガンドリルマシンが好調な売れ行きを示しました。顧客企業の生産拠点の海外展開にも対応し、東南アジアから中国、さらにインドまで納品先が広がりがつつあります。

また、ドリル類などの消耗品の生産や、相模原・柏・名古屋の工場におけるガンドリルマシンでの請負加工にも力を入れ、景気の波に左右されにくい事業体制を構築した

ことも功を奏しました。

#### 【自動車関連事業】

ミロクテクノウッド（持分法適用関連会社）による自動車関連事業におきましては、純木製ステアリングハンドルおよびシフトノブが大変好調に推移したことと、商流変更による取扱い品目の増加等により、20%近い増収という結果を残すことができました。

また、パートナーである東海理化グループの支援を受け、SCA（サプライチェーンアクティビティ）という生産工程の改善活動とトヨタ生産方式を導入。収益面だけでなく人事面でも大きな改善効果が表れはじめ、たゆみない改善意欲を持った集団が形成されつつあるように感じます。



**Q** 来期の展望についてどのようにお考えですか？

**A** 事業の改善と新規ビジネスの模索に取り組みます。

猟銃事業は、米国での原油高の影響が顕著に表れると考えております。可処分所得の目減りによって銃スポーツの需要が冷え込み、生産数量はかなり減少する見込みです。猟銃事業の売上ダウンによるグループの利益減少を最小限にとどめるため、工作機械事業と自動車関連事業が今期以上の業績を上げられるよう努めてまいります。

猟銃事業そのものにおきましても、生産工程や業務の進め方を一から見直す生産革新活動を開始しました。抜本的な改革により、3年後に為替レートの変動に



よってブローニング社への売価が10%下がった場合でも、当期並みの営業利益率を確保するという高い目標を掲げております。

グループ全体の運営方針といたしましては、より一層の相乗効果を引き出していくとともに、各事業が持てる強みを活かして“明日のメシの種”となる新たなビジネスを模索する必要性を切実に感じております。また、今まで以上にIR活動に力を入れていく所存です。

**Q** 株主の皆様へメッセージをお願いします。

**A** 事業を着実に発展させ、利益還元を着実に高めます。

株主の皆様のご支援を賜りまして、3つの事業がバランス良く展開できる状況になりました。猟銃事業と工作機械事業は成熟期に入った事業であると認識しておりますが、現状を改善する余地は多々残されております。それによって、猟銃事業と工作機械事業は潜在する可能性を引き出すことができるでしょうし、自動車関連事業もさらなる成長の波に乗ることができると確信しております。

このような事業の伸展を目指し、生産能力の限界に

近づきつつある生産設備の拡充も進めてまいります。そのための設備投資が、近い将来大きなリターンを生み、それを株主の皆様へ還元することが、私どもの使命だと肝に銘じております。

事業の着実な発展を継続させ、株主の皆様へのリターンを着実に高めていく所存ですので、今後とも、より一層のご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

# 事業別営業概況

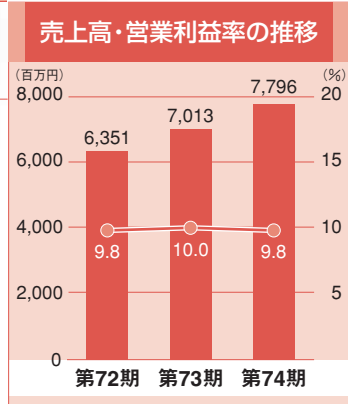
## 猟銃事業

売上高 7,796百万円

売上高構成比

50.6%

■ 売上高(百万円) ● 営業利益率(%)



## 営業概況

猟銃事業におきましては、主力の米国市場は堅調に推移しております。平成17年4月に発生した部品調達先での火災により、一部減産を余儀なくされた機種があったものの、付加価値の高い上下二連銃の増産などにより、これをカバーしてまいりました。

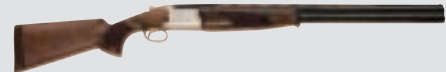
その結果、売上高は77億9,625万円(前期比11.2%増)、営業利益7億6,281万円(前期比8.4%増)となりました。

来期はブローニング社との共同開発の促進など、製品開発力の強化を最重要課題として取り組み、受注の維持・拡大を図ってまいります。またグループ体となった原価低減活動を推進して事業基盤の強化を図り、猟銃製造業での世界一を目指します。

## 事業紹介

### ショットガン

ミロク製作所が米国ブローニング社と提携してOEM生産する猟銃は、『BROWNING』のブランドを冠して、世界の市場に送り出されます。ショットガン(散弾銃)は、単発から上下二連、ポンプアクションまでラインナップタイプも豊富。なかでも上下二連式のショットガンは、高級クラスのカテゴリーでは米国内で40%のシェアを占めるヒット商品です。日本国内向けには、自社ブランド「B.C.MIROKU」の名で販売されています。



Citori



Cynergy



BPS

### ライフル

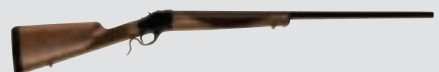
ブローニング社と提携して最初に量産を開始したのが、22口径のレバーアクションライフル銃でした。現在もレバーアクションならびにボルトアクションのライフル銃を製造しています。『BROWNING』ブランドだけでなく、世界的ブランド『WINCHESTER』が誇る19世紀後期のライフル銃を、ミロクの技術によって現代に蘇らせました。西部開拓時代のスピリットを受け継ぐ名品として、高い評価を受けています。



A-BOLT



BLR

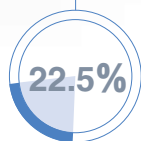


MODEL 1885

## 工作機械事業

売上高 **3,469**百万円

売上高構成比



■ 売上高(百万円) ● 営業利益率(%)

### 売上高・営業利益率の推移



## 営業概況

深孔加工用ガンドリルマシンを主力とする工作機械事業は、自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が順調な推移を維持したことで、機械部門、ツール部門、加工部門ともに増収増益となりました。

その結果、売上高は34億6,930万円(前期比6.0%増)、営業利益7億3,170万円(前期比4.7%増)となりました。

来期は販売促進に力を入れるとともに、安定した受注が見込めるツール部門および加工部門の生産能力拡充を図り、現在の高水準の業績を維持することに努めます。また将来に向けた新市場の開拓ならびに顧客ニーズに応じた製品の開発を進めてまいります。

## 事業紹介

### 機械部門

金属などに深い孔を真っ直ぐにあけるガンドリルマシンを自社で商品化し、自動車関連業界や金型業界などの精密な孔加工を必要とする企業へ納入。北米や東南アジアなどの世界市場にも進出しています。また、半導体業界などへは精密研磨を行うラッピングマシンを供給しています。



ガンドリルマシン



ラッピングマシン

### ツール部門

ガンドリルマシン用の各種ドリル類、ラッピングマシン用の各種定盤やラッピングパウダー類といった消耗品の販売を行っています。また、ドリルやリーマ、ロータリーバーといった一般的な超硬切削工具も販売しています。



ガンドリル

### 加工部門

自社のガンドリルマシンを使った孔あけ加工を請け負っています。相模原、柏、名古屋にある4工場において、高精度・高効率、そしてコストパフォーマンスに優れた深孔加工と、孔加工に付随する全加工に対応します。



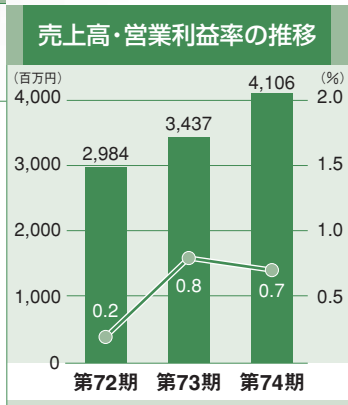
## 自動車関連事業

売上高 4,106百万円

売上高構成比

26.7%

■ 売上高(百万円) ● 営業利益率(%)



## 営業概況

自動車業界は国内および輸出版売台数ともに好調を維持し、自動車関連事業の主力である純木製ステアリングハンドルの装着率が高まりました。また商流変更による取扱い品目の増加などもあり、増収となりました。利益面につきましては価格調整を行ったことから、前期並みとなりました。

その結果、売上高は41億661万円(前期比19.5%増)、営業利益2,685万円(前期比1.0%減)となりました。

来期も事業の好調な推移が予想されるなか、生産性の向上と、材料および手直しなどの歩留まりの改善によって価格競争力を強化し、高収益体質への転換を図ります。また新製品・新工法の研究開発にも力を入れ、業容の拡大に努めてまいります。

## 事業紹介

## 純木製ステアリングハンドル

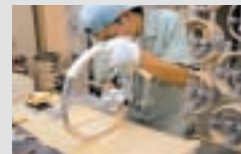
猟銃製造から派生した木工技術が認められ、ミロク製品がトヨタ自動車に純木製ステアリングハンドルとして採用されました。世界最高水準のさまざまな規格テストに合格し、量産体制も確立。独自の技術により、フィンガーアシストなどの3次元曲面も自由に造形することが可能です。



ウォールナット(くるみ)製



メイプル(かえで)製



## 自動車内装用木工パーツ

トヨタ自動車との関わりは1997年までさかのぼります。長年培ってきた木工技術をベースに、ひとつとして同じものがない自然素材を使い、可能な限り均質な工業製品を作る生産体制を実現。自動車用シフトノブやレバーコンビネーションスイッチなどで高い評価を得るに至りました。



シフトノブ



レバーコンビネーションスイッチ



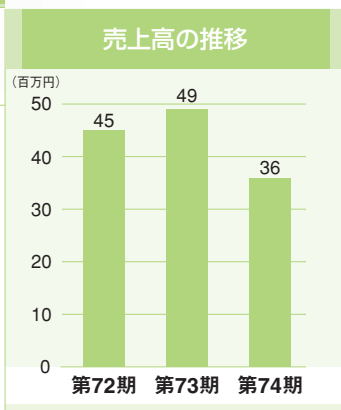
## その他事業

売上高 **36**百万円

売上高構成比

0.2%

■売上高(百万円)



## 営業概況

ミロモックル事業は、公共投資の低迷から厳しい環境が続き、売上高は3,685万円(前期比25.9%減)、営業損失は504万円となりました。来期は、地方自治体への営業活動を継続するとともに、一般住宅などの建築分野への展開を図ってまいります。

## 事業紹介

### ミロモックル事業

薬剤を木材に浸透させ、熱処理による狂いや腐食を防止する含浸技術。猟銃用木材の耐候性研究から生まれたこの技術を屋外建築用木材に応用し、自然素材の風合いを活かしたまま、長期的に維持することを可能にしたのが「ミロモックル製品」です。環境や人体に無害な薬剤を使用し、地球環境に配慮した休憩施設や、心やすらぐ「ぬくもりの広場」等で幅広く親しまれています。今後は、一般住宅の基礎部分への応用など、建築分野での展開に期待が高まっています。



京都府長岡京市／八条ヶ池



広島県豊田郡本郷町／中央森林公園・三景園

## CLOSE UP ミロクオリティ

### 「匠の技」と最新技術との融合

世界最高レベルの耐久性を誇るミロクの猟銃。それを可能にしたのが「ゼロ嵌合」へのこだわりです。最新の量産システムに熟練工の「匠の技」を加えることで、銃身とレシーバーの合わせ面をミクロン単位の精度で加工・調整していきます。さらに猟銃の個性を彩る彫刻技術は、芸術の域に属する職人技。彫金の本場イタリアの技法も取り入れながら、世界トップレベルを追求してきました。またコンピュータ制御による機械彫刻などの総合的かつ先進的な加工技術を網羅しています。



# ニュース&トピックス

2004年  
12月1日

## ■ホームページをオープン

株式会社ミロクのホームページをオープンしました。企業情報、製品情報、採用情報に加え、「バーチャル工場見学～上下二連銃が出来るまで」と題したコーナーも設置。動画も使いながら、世界から屈指の信頼を集めるミロクの銃づくりの工程を分かりやすく紹介しています。また、投資家の皆様向けの「投資家情報」も設け、ミロクグループの財務データや決算短信などを公開しています。

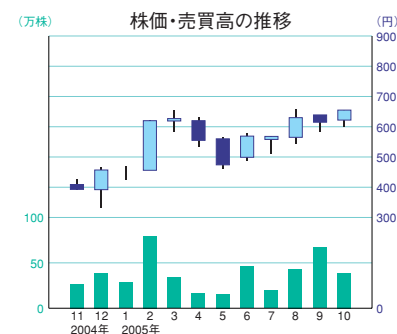
URL <http://www.miroku-jp.com/>



2005年  
6月22日

## ■大証、ミロク株式を貸借銘柄に選定

大阪証券取引所において、ミロク株式は貸借銘柄に選定されました。貸借銘柄とは、貸借取引により資金および株券の貸付けを受けることができる銘柄のことで、証券および証券金融会社が認める選定基準を満たした銘柄が選定されます。ミロクに対する金融機関の信頼度が高まった証明といえるでしょう。



2005年  
11月9日

## ■熟練工が『現代の名工』を受章

ミロク製作所の社員である前川裕が、卓越した技能を持つ『現代の名工』に選ばれ、厚生労働大臣表彰を受けました。前川は上下二連銃の調整作業に関する技能に卓越し、44年間銃づくりに専念。特に、ミロク銃の特徴である「ゼロ嵌合」による仕上・組立作業に力を発揮してきました。後進の技能・技術の指導、育成にも積極的に取り組み、「匠の技」を次代へ伝える重要な役割を果たしています。



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度末 (平成17年10月31日)	前連結会計年度末 (平成16年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,266,567</b>	<b>6,649,475</b>
現金及び預金	937,520	538,789
受取手形及び売掛金	2,744,445	3,618,750
たな卸資産	2,335,592	2,187,074
繰延税金資産	89,691	86,656
その他	181,051	242,628
貸倒引当金	△21,733	△24,423
<b>固定資産</b>	<b>7,846,212</b>	<b>6,868,049</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>4,288,887</b>	<b>3,967,851</b>
建物及び構築物	1,065,028	1,054,347
機械装置及び運搬具	1,922,421	1,603,899
土地	1,105,188	1,105,188
建設仮勘定	18,500	42,539
その他	177,747	161,876
<b>無形固定資産</b>	<b>108,163</b>	<b>102,951</b>
連結調整勘定	15,248	23,105
その他	92,914	79,846
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,449,161</b>	<b>2,797,245</b>
投資有価証券	2,339,753	1,761,156
繰延税金資産	332,893	278,350
その他	968,386	959,922
貸倒引当金	△191,872	△202,182
<b>資産合計</b>	<b>14,112,780</b>	<b>13,517,524</b>

### 流動資産

当連結会計年度末における流動資産の残高は、6,266百万円で、前連結会計年度末に比べ382百万円（前期比5.8%）減少しました。この減少の主な要因は、現金及び預金が398百万円（同74.0%）増加したものの、受取手形及び売掛金が874百万円（同24.2%）減少したこと等によるものであります。

(単位:千円)

科目	当連結会計年度末 (平成17年10月31日)	前連結会計年度末 (平成16年10月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>5,036,681</b>	<b>5,637,378</b>
支払手形及び買掛金	2,100,390	2,430,333
短期借入金	1,800,000	1,948,379
未払法人税等	341,447	375,174
繰延税金負債	1,322	7,806
賞与引当金	120,847	115,796
その他	672,673	759,888
<b>固定負債</b>	<b>2,527,315</b>	<b>2,313,032</b>
社債	500,000	500,000
長期借入金	800,000	800,000
繰延税金負債	202,935	117,097
退職給付引当金	625,509	522,331
役員退職慰労引当金	392,882	363,738
連結調整勘定	5,988	9,864
<b>負債合計</b>	<b>7,563,996</b>	<b>7,950,410</b>
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	<b>11,087</b>	<b>11,178</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	<b>863,126</b>	<b>863,126</b>
資本剰余金	<b>519,267</b>	<b>519,030</b>
利益剰余金	<b>4,914,469</b>	<b>4,069,534</b>
株式等評価差額金	<b>302,945</b>	<b>166,178</b>
為替換算調整勘定	<b>181</b>	<b>△151</b>
自己株式	<b>△62,294</b>	<b>△61,783</b>
<b>資本合計</b>	<b>6,537,696</b>	<b>5,555,934</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>14,112,780</b>	<b>13,517,524</b>

### 固定資産

当連結会計年度末における固定資産の残高は、7,846百万円で、前連結会計年度末に比べ978百万円（前期比14.2%）増加となりました。この増加の主な要因は、有形固定資産が321百万円（同8.1%）増加、投資その他の資産が651百万円（同23.3%）増加したこと等によるものであります。

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成16年11月1日 至平成17年10月31日)	前連結会計年度 (自平成15年11月1日 至平成16年10月31日)
売上高	15,396,659	13,762,370
売上原価	12,429,449	10,990,241
売上総利益	2,967,210	2,772,128
販売費及び一般管理費	1,605,362	1,484,817
営業利益	1,361,847	1,287,310
営業外収益	323,551	186,266
受取利息	—	916
受取配当金	17,619	16,724
持分法による投資利益	247,822	102,254
連結調整勘定償却額	3,875	3,875
その他	54,234	62,495
営業外費用	43,870	72,477
支払利息	36,068	41,274
コミットメントフィー	—	14,389
その他	7,801	16,812
経常利益	1,641,529	1,401,100
特別利益	12,999	29,341
貸倒引当金戻入益	12,999	10,883
保険金収入	—	18,458
特別損失	44,331	65,022
固定資産除却損	11,207	37,434
棚卸資産処分損	12,649	—
火災損失	18,498	—
固定資産購入契約解約損	—	22,416
その他	1,975	5,171
税金等調整前当期純利益	1,610,197	1,365,419
法人税、住民税及び事業税	653,564	594,462
法人税等調整額	△71,909	△55,801
少数株主利益	96	1,659
当期純利益	1,028,445	825,098

### 負債

当連結会計年度末における負債の残高は、7,563百万円で、前連結会計年度末に比べ386百万円（前期比4.9%）減少となりました。この減少の主な要因は、流動負債が600百万円（同10.7%）減少したこと等によるものであります。

## 連結剰余金計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成16年11月1日 至平成17年10月31日)	前連結会計年度 (自平成15年11月1日 至平成16年10月31日)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	519,030	518,770
資本剰余金増加高	237	260
自己株式処分差益	237	260
資本剰余金期末残高	519,267	519,030
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	4,069,534	3,380,870
利益剰余金増加高	1,028,445	825,098
当期純利益	1,028,445	825,098
利益剰余金減少高	183,510	136,435
配当金	118,680	89,085
役員賞与	64,830	47,350
(内監査役分)	(4,200)	(3,350)
利益剰余金期末残高	4,914,469	4,069,534

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成16年11月1日 至平成17年10月31日)	前連結会計年度 (自平成15年11月1日 至平成16年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,732,763	807,067
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,025,974	△368,036
財務活動によるキャッシュ・フロー	△309,033	△878,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	975	△465
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	398,730	△440,277
現金及び現金同等物の期首残高	538,789	979,066
現金及び現金同等物の期末残高	937,520	538,789

### 資本

当連結会計年度末における資本の残高は、6,537百万円で、前連結会計年度末に比べ981百万円（前期比17.7%）増加となりました。この増加の主な要因は、利益剰余金が844百万円（同20.8%）増加したこと等によるものであります。

# 単体財務諸表

# Non-Consolidated Financial Statements

## 貸借対照表

(単位:千円)

科目	当期末 (平成17年10月31日)	前期末 (平成16年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,496,985	2,256,365
固定資産	5,269,050	5,221,934
有形固定資産	1,158,319	1,203,992
無形固定資産	2,278	3,058
投資その他の資産	4,108,452	4,014,883
<b>資産合計</b>	<b>7,766,036</b>	<b>7,478,299</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,831,582	1,982,313
固定負債	1,722,690	1,627,203
<b>負債合計</b>	<b>3,554,273</b>	<b>3,609,517</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	531,268	531,031
利益剰余金	2,552,493	2,339,178
株式等評価差額金	299,331	163,395
自己株式	△34,456	△27,949
<b>資本合計</b>	<b>4,211,762</b>	<b>3,868,782</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>7,766,036</b>	<b>7,478,299</b>

## 損益計算書

(単位:千円)

科目	当期 (自 平成16年11月1日 至 平成17年10月31日)	前期 (自 平成15年11月1日 至 平成16年10月31日)
<b>営業収益</b>	<b>655,128</b>	<b>484,729</b>
営業費用	293,619	266,905
<b>営業利益</b>	<b>361,508</b>	<b>217,824</b>
営業外収益	73,010	81,175
営業外費用	39,161	60,835
<b>経常利益</b>	<b>395,358</b>	<b>238,164</b>
特別利益	301	2,146
特別損失	2,837	735
<b>税引前当期純利益</b>	<b>392,821</b>	<b>239,574</b>
法人税、住民税及び事業税	43,597	28,139
法人税等調整額	△15,771	4,636
<b>当期純利益</b>	<b>364,995</b>	<b>206,798</b>
前期繰越利益	277,251	200,785
中間配当額	59,322	44,536
<b>当期末処分利益</b>	<b>582,925</b>	<b>363,047</b>

## 利益処分

(単位:円)

科目	当期 (平成18年1月27日)	前期 (平成17年1月28日)
当期末処分利益	582,925,071	363,047,324
任意積立金取崩額	5,780,128	6,562,788
計	588,705,199	369,610,112
利益処分額	93,311,180	92,358,544
利益配当金	59,311,180	59,358,544
役員賞与金	34,000,000	33,000,000
(内監査役賞与金)	(3,000,000)	(3,000,000)
次期繰越利益	495,394,019	277,251,568

### 会社概要

社名	株式会社ミロク Miroku Corporation
所在地	高知県南国市篠原537番地1
設立	1946(昭和21)年7月5日
資本金	2003(平成15)年5月1日持株会社化 863,126千円
従業員数	552名(連結対象子会社含む)
事業内容	<p><b>猟銃事業</b> 猟銃の製造および販売</p> <p><b>工作機械事業</b> 深孔加工機等工作機械・工具の製造および販売</p> <p><b>自動車関連事業</b> 自動車用部品の製造および販売</p> <p><b>その他事業</b> 木工製品の加工および販売</p>

### 役員

代表取締役会長	竹村 士郎	取締役	深見 裕夫
代表取締役社長	弥勒 美彦	取締役	P.ブルジョワ
代表取締役専務	田中 勝久	取締役	C.グブラumont
取締役	吉田 順作	常勤監査役	松浦 幸治
取締役	下司 順一	監査役	平田 豊治
取締役	四手井 洋一	監査役	紅露 昭男
取締役	藤川 義男	監査役	山本 吾一
取締役	荒井 瑞夫		

### 連結子会社

株式会社ミロク製作所  
株式会社ミロク精工  
株式会社香北ミロク  
株式会社梶原ミロク  
ミロク機械株式会社  
MIROKU MACHINE TOOL, INC.  
株式会社馬路ミロク

### 関連会社

株式会社ミロク工芸  
ニッサンミロク株式会社  
株式会社ミロクテクノウッド  
T&M USA INC.  
株式会社特殊製鋼所  
株式会社ミロク興産

# 株式情報 (平成17年10月31日現在)

## 株式の状況

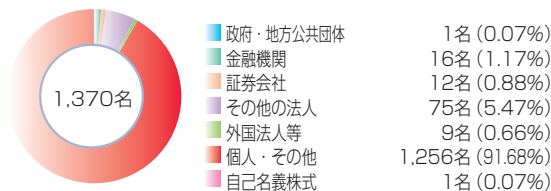
会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,027,209株
株主数	1,370名

## 大株主 (上位10名)

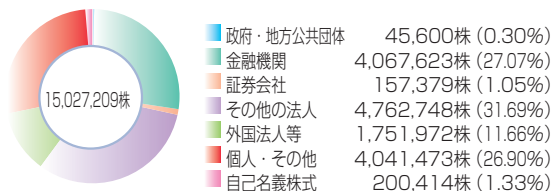
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
プローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村證券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
ミロク共栄会	522	3.5
日本油脂株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0
日本生命保険相互会社	444	3.0

## 株式分布状況

### 所有者別株主数



### 所有者別持株数



# 株主メモ

決算期	毎年10月31日
利益配当金受領株主確定日	毎年10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年4月30日
定時株主総会	毎年1月
1単元の株式数	1,000株
証券コード	7983
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-8502 大阪府中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話無料) 0120-094-777
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

- 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。  
電話 (通話無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



株式会社 **ミロク** 高知県南国市篠原537番地1  
TEL:088-863-3310



この報告書は、環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しております。